

■5月14日

ジンエアー(LCC)、長崎—仁川線就航へ向け覚書、7月下旬から週3便

ジンエアーによる長崎—仁川線の就航に向け、長崎県と同社は13日、ソウルのホテルで覚書を交わした。

ジンエアーは、週3往復で、7月下旬に運航を始める予定。一方、長崎県は同社への支援策として、6月定例県議会に提出予定の補正予算案に着陸料補助金などを盛り込む。

同路線は、大韓航空による週2便で運航していたが、今年4月末から運休しており、同県が韓国のLCCに新規開設を働き掛けていた経緯がある。

(西日本新聞)5/14

<http://www.nishinippon.co.jp/nnp/item/363468> (-> <http://www.nishinippon.co.jp/nnp/item/363468>)

成田空港、深夜着陸弾力的運用、全日空のニューヨーク便へ適用、2例目

成田国際空港会社は12日、成田空港の深夜離着陸制限を解除し、悪天候のため現地空港からの出発が遅れた全日空1009便に対して午後11時台の着陸を認めた。3月31日から運用している制限緩和の新基準を適用した2例目となった。

ANA1010便(成田/ニューヨークJFK)は、目的地であるニューヨークJFKの雷雨による悪天候のため、着陸できずニューヨークにダイバーとし、その後、ニューヨークJFKの天候回復を待ち、到着予定時刻から約3時間20分遅れて到着した。その影響により、ANA1009便(定刻07時05分ニューヨークJFK発、21時00分成田着)は、玉突きで遅延が発生し、ニューヨークJFKを10時16分に出発し、23時56分に成田に到着した。

成田空港から都内への公共交通アクセスがない時間のため、ANAがバスを手配したという。

(毎日新聞)5/13

<http://mainichi.jp/area/chiba/news/20130513ddlk12020046000c.html> (->

<http://mainichi.jp/area/chiba/news/20130513ddlk12020046000c.html>)

(NAA HP)5/13

http://www.naa.jp/jp/csr/curfew/soft/2013_5_12-curfew.pdf (-> http://www.naa.jp/jp/csr/curfew/soft/2013_5_12-curfew.pdf)

(-> http://www.naa.jp/jp/csr/curfew/soft/2013_5_12-curfew.pdf)

国交省、トルコと航空交渉、従来枠組みの拡大

国交省は10日、日本とトルコとの航空当局間協議を14日—16日の日程でアンカラにおいて開催すると発表した。

同省は昨年のUAEやカタールとの交渉と同様、オープンスカイ協定ではなく、路線・輸送力などといったこれまでの枠組みの拡大をベースに協議する方針だ。

尚、現在はトルコ航空のみ(全日空とコードシェア)が成田・関空へそれぞれ週7便で乗り入れを行っている。

(日刊航空)5/13

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(国交省 プレスリリース)5/10

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000206.html (-> http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000206.html)

国交省、伊丹空港、長距離便運用制限、低音速機枠15%まで段階的に緩和

国交省は、伊丹空港の長距離便運用制限について、プロペラ機枠が2015年3月末までに段階的に低騒音機枠に転換されることにあわせて、低騒音機枠の15%まで段階的に緩和することを決めた。

具体的には、プロペラ機枠1日85便(発着170回)が3段階で低騒音機枠化されることに伴い、その年に低騒音機枠化される便数に対して5%ずつ長距離便の運航上限を増やしていく。2013年度は新たに1日1.25便、2014年度は計5便、2015年度には計12.75便の長距離便の運航が可能となる見込みだ。

また、同省は運航権益について、関西国際空港での国内線の運航実績に比例して大手2社へ配分することも決めた。

(日刊航空)5/14

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

エアバス、A350を初披露

(時事ドットコムによると)

欧州航空機大手エアバスは13日、フランス南西部トゥールーズの組立工場で、開発中の最新鋭機A350の機体を関係者数百人に初披露した。AFP通信によれば、報道関係者は立ち入ることができなかったが、尾翼部分に青の塗装を施された白い機体が敷地外から確認できた。

A350は、バッテリートラブルによる運航停止の解除が決まった米ボーイングの最新鋭中型旅客機787型機の競合機と位置付けられている。当初計画より開発が1年以上遅れており、今夏から飛行試験に入り、2014年中の引き渡し開始を予定している。